

雇用確保、中小企業支援は市の責務

市の緊急経済対策補正予算、全会一致で可決

第1回臨時市議会が19日開かれました。緊急経済対策ということで市はこの日、2億6037万円一般会計補正予算を提出しました。これに対して日本共産党議員団の上野公悦議員など4議員が総括質疑で登壇し、今回の対策の特徴などについてたどりました。

上野議員は、これまで実態把握、雇用確保でどう動いたか、緊急経済対策の総合性、市独自の緊急雇用安定対策助成金のねらいと今後についてコンパクトに質疑を行いました。

過去に経験したことのない急激な受注の減少が

上野議員は最初に、「市内企業は大変深刻な状況下にある。企業の倒産を防止すること、またその下で働く社員の解雇、特に派遣社員や期間契約社員の雇い止めを防止し、雇用を守ることは市の大きな責任だ」とのべ、実態調査など市の取り組み状況についてききました。

答弁の中で木浦市長は、「あらゆる業種において過去に経験したことがない急激な受注の減少、消費の冷え込みによる売上げや利益の減少がみられる。市として、企業に対して雇用の維持をお願いするとともに、関係機関に雇用の維持、違法解雇の防止などを要請してきた」とのべました。

続いて上野議員は、「市長が言われる『百年に一度の経済災害』ということであれば、私は、規模や内容において、市民の暮らし、営業を守るためにはもっと総合的な支援措置、対策を打ち出すべきではないか」と質疑。これについて木浦市長は、「緊急経済対策として雇用対策、中小企業支援の2つにしようとしたのは、市民生活に密着し即効性があるからだ。市内の循環を促し、お金が広く行き渡るものと期待している。できるかぎりの最大限の対策としてお願いした」と答えました。

今回の補正でマスコミなどから最も注目されたのは緊急雇用安定対策助成金制度です。この制度では補助対象期間が3月15日までとなっていることから、上野議員は、「年度末になってさらに離職者が増える可能性がある。その時のことを考えたら、ぜひ存続を図るべきだ」と訴えました。

緊急雇用安定対策助成金制度の継続・拡充検討へ

木浦市長は、「国、県の動向を踏まえ、制度の継続、拡充を検討していきたい」と答弁しました。

押し花で作られた牛の絵です。提供は吉川区のMさん。

日本共産党議員団と語る 市民懇談会

中心市街地活性化問題

1月29日(木) 18:30~20:30
上越市市民プラザ 第一会議室

13区での通学バス問題

2月5日(木) 19:00~21:00
柿崎地区公民館(総合事務所隣)

新年度の重要問題です。誘い合って参加して下さいますようお願いいたします。

不況打開、消費税増税許すな！ 民商青旗開きで橋爪団長挨拶

100年に一度、といわれている不況の中、上越民主商工会の旗開きが18日、直江津で行われました。日本共産党議員団からは地元町内会の新年会に出席していた上野議員をのぞく3議員が参加し、激励しました。

青旗開きにあって宮崎会長は、「消費税の増税が選挙の争点としてはっきりと打ち出された。これを迎え撃つ新年だ。さあ、自らの力で政治を変えよう」と訴えました。

日本共産党を代表して挨拶に立った橋爪団長は、昨年一年間のたたかいを振り返り、全国を励ますたたかいをしてきたことを報告するとともに、当面する総選挙では、「消費税増税を公約に掲げ選挙をたたかう勢力に絶対負けてはならない。アメリカいいなり、財界中心の政治を変えるために、ともにたたかいましょ」と呼びかけました。

日本共産党議員団の3人は会場でいろいろな業種の方と懇談し、激励してきました。



日本共産党上越市議員団ニュース

No.166 2009年1月25日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)